

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

7

July, 2014

vol. 391

Contents

建築探訪…01

会員仕事紹介…03

支部だより…05

定時総会開催報告…07

委員会活動報告…08

旅行記…09

編集者のつぶやき…10



建築探訪

国宝 迎賓館赤坂離宮

川崎支部 おんだ建築事務所 恩田 耕爾

小田原攻めの後、豊臣秀吉に江戸への転府を命ぜられた家康は八王子城を落とし、甲州街道を東に進軍し、江戸城に入りました。当時の江戸城で最も弱点だったのが市ヶ谷壕と弁慶壕の堀の切れた四谷界限でした。幕府はこの高台に真田壕（現在は埋め立てられている）を造り、また街道を挟むように徳川御三家の尾張家上屋敷（現防衛庁）と紀伊家居屋敷（現赤坂離宮と東宮御所）を配置した。現在の赤坂離宮は紀伊家居屋敷の街道寄りの北角に位置します。地下鉄赤坂見附駅とJR四ッ谷駅の間です。JR四ッ谷駅からですと駅の出口をでて赤坂方面に向かうと右手に学習院初等科の校舎と大きなユリノキの街路樹が見えてきます。そこから迎賓館の正門と外構柵が見えてきます。

正門はフランス製の鋳鉄に青銅細工の装飾を取り付け白と金色に塗り分けられています。昭和40年代に村野藤吾と谷口吉郎の設計協力により、赤坂離宮から国の迎賓館に改修された。改修については村野藤吾の言葉によればフランスのヴェルサイユ宮殿の付属宮殿であるグラントリアンを範としたとの話である。村野が色決めた白色と金色の門扉もそうなのだろうか…。正門と外構柵の奥には緑青の屋根と重厚な御影石の外壁の白亜の殿堂が見えます。赤坂の低地から紀伊国坂を登った丘陵地はもともと紫色の茜（あかね）が多く繁殖していたところから茜山または赤根山と呼ばれていたところでした。余談ですが赤根山に登る坂を赤坂と呼び、現在の赤坂の地名になった。坂の名前はその後、紀伊

1



北側正面入り口



南側の噴水とそれを見下ろす廊下



村野藤吾の色彩計画の白と金の正門



菊のご紋がある玄関扉

国坂となった。昨年はこの迎賓館の見学会がありました。入り口を入ると右手に白亜のネオ・バロック様式の西洋風宮殿建築物が見えます。

見学者は1階、西玄関から円弧を描く廊下を抜け、2階にある「彩鸞の間」、「花鳥の間」、「朝日の間」、「羽衣の間」を見学できます。内部の写真撮影は禁止されています。中でも圧巻は130名収容できる「花鳥の間」です。国賓等の公式晩餐会が催される大食堂で、壁はシオジ板張りで西洋にはない日本独特のものです。今年はおバマ大統領が4月の24日に国賓として来日し、安倍首相との日米首脳会談が行なわれました。板張りの上に楕円形の七宝焼きの花や鳥の絵画が見られます。新聞の写真ではシオジ板張りに七宝焼きの額をバックに安倍さんおバマさんが撮影されていました。フランスからの大きなシャンデリアが天井からぶら下がった「朝日の間」にはライオンの頭の騙し絵があり、どこから見てもライオンに睨まれています。構造は東京駅と同じ鉄骨煉瓦造で、設計者は片山東熊で工部大学校造家学科（後の東大工学部建築学科）の一期生です。片山は師のコンドルから西洋建築学を習得し、それを日本流に置き換えて設計に取り組んだ工夫が天井の壁画ほか随所に見られます。ネオ・バロックの特徴である絢爛豪華な絵画、楕円、スタッコ（模造大理石）、色大理石、金箔などが見られます。建物を出ると裏側になりますが、南庭には大噴水があります。すぐ脇には谷口吉郎設計の和風別館があり、風が抜けていきます。涼しい風の通り抜ける場所があります。今年も見学会が予定されますが、結構皆さんは赤坂離宮の敷地内を通っています。離宮の庭園の地下には当時(明治20年代)、甲武鉄道（現中央線）の地下トンネルが造られ、現在も私達は利用しています。東京では一番古いトンネルです。鉄道のみならず、都心に向かう高速道4号線も多く利用されています。江戸幕府の防衛重点地域でおバマさんと日本国の防衛についての会合場所となったのも因縁めいたものを感じます。



正面屋根には武士の鎧姿が



近代国家を意識したデザイン

離宮という言葉ですぐに思い出されるのが江戸時代初期につくられた桂離宮です。日本初の回遊式庭園と数奇屋風書院が自然の中にたたずんでおり、1930年代に来日したドイツの建築家ブルーノ・タウトがその美を評価しました。明治42年(1909年)完成の赤坂離宮の場合は、明治の時代に文明開化を目標に近代的国家への成長と、欧州の建築、庭園様式を取り入れた意匠が要求された。建物も庭園も西洋式で左右対称です。その存在を表現する赤坂離宮と数寄風に自然の中に一体的に佇む桂離宮とは同じ客をもてなすというコンセプトでありながらまったく違ったものになっている。都知事も新たな迎賓館として浜離宮恩賜公園にはこんなイメージとして夢見ているかも知れません。今年も赤坂離宮の一般参観が8月に予定されています。

鎌倉市景観重要建築物「湯浅物産館」

鎌倉支部 菅原浩太建築設計事務所
菅原 浩太

鎌倉の若宮大路沿いに建つ「湯浅物産館」は、明治30年に湯浅新三郎により貝細工の製造加工・卸売りの店として創業され、関東大震災による焼失などを経て2回建て直され現在の形となりました。

現在の建物は鎌倉市の景観重要建築物に指定されています。木造2階建、間口6間(約10.8メートル)、奥行11間半(約20.7メートル)という大きな建物で、店舗のほぼ中央が吹き抜けになっており回廊を巡らせて天窗から明るい陽射しを採り入れるというとても面白い空間構成となっています。また、1階の店舗は7寸柱が4本のみで中央に壁は無く広い一室空間となっています。建物のファサードは「看板建築」という建築様式で半円形の装飾窓とスクラッチタイルで構成されており背後の小舞土壁による和風の屋敷を感じさせないような西洋風商業ビルの外観になっています。

今回、この築78年の建物の耐震補強工事と複合商業施設への全面リニューアルを鎌倉支部会員である清興建設株式会社が元請けとなり、鎌倉支部により耐震補強設計を行う形で進められました。

この建物の大きな特徴としては、前述したトップライトとそれを取り囲む回廊、1階の広い一室空間や「看板建築」ですが、その他にも細かな装飾として回廊の手摺のデザイン、回廊に面した古いガラスの入った木製戸による開放的な造り、1階の店舗天井の全面が押し出し成形による華麗な模様に入った天井パネルなど、ディテールも魅力に溢れています。しかし、それらの魅力が全て活かされておらず、トップライトもその存在を感じさせることなく下の店舗が配されてあったり、1階の天井パネルも塗装が剥げ落ちたり孔が開いたりという状態でした。ファサードのスクラッチタイルもところどころ欠けていました。

リノベーションに際して、この建物の空間構成の魅力やディテールを最大限活かしながら、新しい空間へリノベーションするというのが最大のコンセプトでした。トップライトの屋根の波板は取り払い、棟木を架けてガラスを嵌め込みました。



以前はトップライトと1階の店舗の繋がりが希薄でしたが、リノベーションに伴い1階の店舗と2階の店舗が立体的に繋がり、とても素晴らしい空間となりました。また、孔の開いた天井パネルなども奇麗に修復されました。

耐震補強工事に関しては、1階の大きな一室空間の補強として梁間方向の壁の新設が必要でしたが、店舗の中央に壁を設けたくないことから、外壁側に袖壁の耐力壁を設け、それがテナントの展示ブースと一体化として違和感を感じさせないよう配慮をしました。

1階の店舗の奥はオーナーの居住スペースと倉庫として使われてきましたが、店舗とカフェに生まれ変わりました。2階は回廊を中心に広い座敷がありましたが、リノベーションして「鎌倉着物スタジオ」が入りました。インテリアコーディネートはアルコデザインの小山礼子氏によりデザインされました。

非常に短い工期の中でしたが、清興建設株式会社の総指揮のもと、みんなで力を合わせるこのような市の景観重要建築物に指定されている歴史的建築物のリノベーションに係わることができました。生まれ変わったこの建物で湯浅物産館の新しい歴史が刻まれていくことを楽しみにしています。

リノベーション 企画設計施工 清興建設株式会社
協力 鎌倉支部 高野、菅原、福田



4



支部だより 川崎支部 視察研修旅行 “香港・マカオ2泊3日”

川崎支部 白井 勇

1997年7月1日香港の主権がイギリスから中国へ返還された。それ以前何回か香港を訪れたとき九龍城すれすれに啓徳空港に着陸する窓からの香港島の夜景は1990年代に建設された高層ビルが迫って来る迫力と美しさで圧倒されたものだった。

今回、川崎支部の視察旅行で訪れた「新香港国際空港」ノーマン・フォスターへの到着は20年前とは違った印象になった。



新香港国際空港

この感覚の違いが中国パワーの異なった意味での迫力に圧倒された感のある旅行となった原因かもしれない。

かつて“慕情”に描かれた西欧と中国の心地よい混在感の懐かしさが思い出された。1990年代に建設された中環（セントラル地区）の金融街の「香港上海銀行」ノーマン・フォスター、「中国銀行」イオ・ミン・ペイ、「リッポーセンター」ポール・ルドルフは近代的な超高層建築ではあったが何か頼もしい建築の登場として受けとめられた。上海銀行は特に未来的な建物ではあるが、主要なフレームはイギリスの産業革命から脈々と培ってきた鋳物鋳造技術に支えられたものだった。



上海香港銀行



中国銀行

西洋と東洋が衝突する最前線香港は中国的超拡大パワーが目立ってきたような気がした。日本の製造業もこんな得体の知れないリスク回避の為に中国以外に生産拠点を求め逃げ出す、いわゆる「チャイナ・プラス・ワン」へと分散戦略をとってきている。解る気がした。

光景が常に変わりつつある香港の中で「香港理工大学イノベーションタワー」ザハ・ハディドは異彩を放っている。2020年の東京オリンピックに向けて

建設される新国立競技場の設計者の最新作である。この流れで国立競技場は出来るのかな?と思うと何



香港理工大学イノベーションタワー

か複雑。ただ修繕の為に掛けられていた“竹の足場”には人間臭さと香港のエキゾチックさを感じる。日頃、建築のあり方や歴史観を考える機会が薄らぎがちな昨今、久しぶりに感じた“建築はやっぱり楽しい”という心の騒つきだった。

香港の新世紀への方向はランタオ島沖の新空港と中国本土からの高速鉄道・地下鉄のインフラ整備の凄まじさ。香港に接している深圳やマカオに接する珠海の経済特区での開発は半端ではない。人が住むの?と思いたくなる。

東西文化の不思議な融合マカオを駆け足で訪れた。世界遺産に2005年に登録させた歴史地区はポルトガルと中国が同居するユニークな街並みである。約450年間にわたるポルトガルの統治はヨーロッパの街並みを彷彿させる建物が並ぶ一方で中国の伝統的な寺院が同居する独特の景観が残されている。その中でマカオの名をさらに有名にしている“カジノ”もぞくぞく巨大なエンターテインメントとして増殖している。東京のオリンピックに向けてのカジノ誘致は“品良く”実行してもらいたいものである。



歴史地区 マカオ

刺激的な二泊三日の時間もヴィクトリアピークからの絶景も、20年前のそれと異なっていて、到着での印象の違いを最終まで感じながらの視察旅行になった。

支部だより 相模原支部活動報告

支部長 西倉 哲夫

神事協の皆さま、こんにちは、相模原支部長の西倉でございます。

今回は会報で相模原支部の活動についてご紹介方々ご報告をさせていただきます。私どもの毎年恒例となっている支部行事は次のようなものがあります。春は4月の相模原市民桜まつりにブースを出展しての参加と支部決算総会、夏は6月末の支部研修旅行と8月の会員交流納涼会、秋は11月初旬の「建築・住まいるフェスタ」の開催、このフェスタは共催で相模原市と横浜弁護士会相模原支部と一緒にっております。冬は12月の会員交流忘年会の開催があります。これらのほかに、相模原市の要請により「相模原市建築物耐震巡回相談会」や「相模原市既存マンション耐震巡回相談会」の協力をしています。また、相模原市木造住宅耐震補助事業の実施についても支部会員が協力・参加をしております。このほかには、支部役員会が年間約12回、副支部長会議が年間約4回行われております。以上が相模原支部の毎年の年間行事であります。その中から昨年11月2日（土）に橋本のアリオ橋本で開催した「建築・住まいるフェスタ2013」と今年4月5日（土）・6日（日）に開催され参加した相模原市民桜まつり、及び4月23日（水）に行われた支部決算総会懇親会についてご報告をし、その時の写真をご紹介します。①の写真は「建築・住まいるフェスタ2013」の時の写真です。このフェスタは毎回、法律相談・住宅耐震相談・建築なんでも相談等行い、アンケート調査を行い建築士事務所の業務を市民に理解してもらうこと



①建築・住まいるフェスタ

と防災・減災の意識を高めってもらうために開催しています。この時は相模原市が作成した銀河連邦ヒーロー・

サガミリオンも特別参加して会場はとても盛り上がりました。銀河連邦とは市内にJAXAの施設がある縁で1987年に交流を始めた自治体（4市2町）から成る組織で、ユーモアとパロディの精神で連邦国家を組織し、各自治体を「共和国」、首長を「大統領」と呼んでいます。②の写真は

「相模原市民桜まつり」に参加した時の写真です。市役所本館1階のロビーにおいて、耐震相談・建築相談・アンケート調査等を行い、フェスタの内容とダブりますが、毎年、市役所建築指導課の協力を得て参加しています。③の写真は支部決算総会懇親会の写真です。この時は相模原市長・加山俊夫様、衆議院議員・赤間二郎様、相模原商工会議所副会頭・大野則夫様、神事協会長・小林忠志様はじめ多数のご来賓のご臨席を賜り盛大に開催することが出来ました。改めて皆様への感謝の気持ちをお



②相模原市民桜まつり

伝えたいと思います。誠に有難うございました。この後に控えている行事は、支部の研修旅行です。今年は今最もタイムリー話題となっている世界遺産登録推進中の旧官営富岡製糸場から信州方面へ行く予定です。今から楽しみです。これからも相模原支部は神事協の発展と設計業界の地位向上のために一生懸命汗をかきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。



③相模原支部決算総会懇親会

**一般社団法人神奈川県建築士事務所協会
第2回定時総会(平成25年度決算総会)報告**

日時 平成26年6月6日(金) 14:30~
場所 ロイヤルホールヨコハマ4階 エリゼ
横浜市中区山下町90

◇司会者 来住野理事

◇開会の辞 芝副会長

◇物故会員(4名)に黙祷

◇会長挨拶 小林会長

◇定足数の確認

現在会員数 770名(過半数は385名)

議場出席者 83名

書面表決出席者 365名

委任状出席者 63名

出席者合計 511名

以上、定款第23条による総会の成立を報告

◇正副議長の選出

議長 平塚支部 斉藤清様

副議長 秦野支部 山本敏夫様を選出

◇議事録署名人選出

定款第26条2項により議事録署名人として会長
小林忠志氏と県西支部長谷川匡氏を選出

◇議案

- (1) 第1号議案 平成25年度事業報告承認の件
白井副会長より報告

- (2) 第2号議案 平成25年度決算報告承認の件
永田総財務委員長より報告

(3) 監査報告

田中監事より平成25年度監査報告

第1号及び第2号議案の説明と監査報告を終了し、議長は一括質問を受ける旨発言。議長は質問のないことを確認し、議場に対し第1号及び第2号議案について一括して承認を求め、満場一致の承認を認め、議場83名、書面表決365名、委任状63名の承認を合わせて511名の承認となり定款第23条による過半数を満たしている事から、承認された。

◇正副議長解任

議事の終了を宣言し、正副議長解任を司会が宣言

◇報告

司会は、定款第51条により事業計画及び予算の報告を行うよう発言

- (1) 第1号報告 平成26年度事業計画の報告
白井副会長より報告

- (2) 第2号報告 平成26年度予算の報告
永田総財務委員長より平成26年度予算を報告

◇その他

司会は、議場にその他に発言がないことを確認した

◇閉会の辞 棕副会長



委員会活動報告 ～2014 tvk 秋じゃないけど 収穫祭～

広報情報委員会 白川 正孝
(平成26年5月31日現地取材)



5月31日・6月1日の2日間にわたり日本大通り・県庁前・象の鼻パークを舞台にtvk・日本大通り活性化委員会主催で今年、8年目の収穫祭が開催されました。好天の五月晴れの中、神奈川県産の食材・加工品、環境に配慮した雑貨、環境に優しい企業団体のPRブース、音楽ライブ、

人気キャラクター、親子参加型ワークショップ等々があり、隣接する横浜公園で同時期開催の「横浜開港記念バザー」のにぎわいと重なりとてもにぎやかなお祭りです。黒岩県知事も女子高生と踊りに興じていました。



私共、神事協も象の鼻パークの一角にブロック支部委員会「住・緑・家」展示・紙模型作成、横浜支部「住まいの相談コーナー」を設け参加しました。



県庁正面での女性群のパフォーマンス



横浜開港記念バザー会場

旅行記

いにしえ

古の登山道を往く

横須賀支部 高橋設計事務所
高橋 典子

平成25年6月に世界文化遺産に登録された富士山。その山頂へは山梨・静岡両県合わせて4つのルートがある。山梨県側の登山ルートは吉田口（北口）登山道と呼ばれ、5合目までの富士スバルラインが開通する昭和39年までは、麓から山頂を目指す多くの登山者で賑わっていたのではないだろうか。

私は富士山の麓、山梨県富士吉田市で生まれ育ったが実はまだ富士山頂に立った事が無い！富士山は登るものではなく、見るものであると思っていた。帰省するたびに実家の窓から見える富士の姿は日本一の名にふさわしいと思っている。高校時代、この吉田口登山道を走ったり、歩いたりして三合目あたりのゴールを目指す大会があったが、運動が嫌いな私は、最低地点まで行き、あとはサボってしまった思い出がある。そんな私が、今は訪れる人も少なくなったであろう五合目までの登山道を歩いてみることにした。

まずは吉田口登山道の起点である北口本宮富士浅間神社に向かい、神社拝殿で登山の安全祈願をする。境内の登山門をくぐると富士山頂への一歩が始まるのだが、今回はここから少し富士山寄りにある馬返（うまがえし）に車で向かう。一般に「馬返」とは「登山路で道が険しくなり、乗ってきた馬を返して徒歩に変わる地点」（広辞苑）をさし、ここが本格的な登山道の始まりとなる。現在もバス停があり、その名を留めている。

ここで身支度を整え、いよいよ登山を開始する。五合目までの標高差は780m位。所要時間は2時間10分となっている。整備された登山道を一合目へと向かう。15分程歩くと今は使われていない建物が左手に見えてくる。一合目の神社で現在は「鈴原社」と

称される社祠である。近づいてよく見ると比較的新しいお札等も置かれている。

新緑の木立の中、さらに歩みを進める。途中、山小屋の残骸が山積みされていたりする。

30分歩き、二合目に到着する。ここには御室浅間神社が祀られており、鳥居と拝殿が残されている。富士山は昔も今も信仰の山だという事を再認識する。ここを歩く前に、富士山の歴史を勉強すべきだったかな。登山道の要所要所に設置された案内板にも昔の絵図などが盛り込まれ中々良い雰囲気だ。富士吉田市にしては、上出来である。

三合目までは快調な足取りだったが、暑さも手伝い、また登山道も心なしか険しくなり足がなかなか前に出ない。もう少し体をスリムにしないとイケない反省しながら歩く。四合五勾を過ぎ、滝沢林道に合流し再び登山道に入る。ここまでくれば、五合目の佐藤小屋まではもう少しだ。ふと上を見上げると冠雪した山頂も見える。五合目から上はまだ冬山の様子である。

やっと12時過ぎに佐藤小屋に到着する。登山道の石垣に腰掛け、下界を見ながらお昼ご飯を食べる。途中は暑かったけど、さすがに五合目はヒンヤリしている。でも気分爽快！あんまり気分が良いので1時間以上も休んでしまう。そして下山のために重い腰を上げる。

「今年は絶対に富士山頂に立ちたい」との思いを強くし、馬返まで歩いた私である。

参考文献：『富士山叢書 富士を登る』
富士吉田市歴史民俗博物館編集

9



浅間神社境内で



四合目の案内板

新入会員のご紹介	
6月1日付け入会者	
横浜支部	
一級建築士事務所小山将史建築設計事務所 〒222-0032横浜市港北区大豆戸町516-1 藤和大倉山コープ307 TEL.045-532-0769 FAX.045-834-4035	小山 将史
株式会社マイホーム・スタジオ 〒233-0013横浜市港南区丸山台3-11-16 TEL.045-840-5845 FAX.045-840-5877	永野 正之
7月1日付け入会者	
相模原支部	
西野建設株式会社一級建築士事務所 〒252-0238相模原市中央区星が丘4-1-19 TEL.042-753-2322 FAX.042-753-4175	西野 逸郎
退会	
横浜支部	
小山建築測量事務所	小山成次郎
株式会社フジタ横浜支店一級建築士事務所	廣江 真治
株式会社進藤ホーム	進藤 栄
川崎支部	
Alpha Plus Design	松本美佳子
有限会社臼田建築設計事務所	臼田 俊昭
相模原支部	
株式会社北浜二級建築士事務所	北濱 武
土光設計事務所	土光 快夫
藤沢支部	
有限会社S&Tプランニング	永嶋 浩一
鎌倉支部	
KYG一級建築士事務所	森安 啓司
平塚支部	
株式会社つばさ建築設計事務所	三浦 克美
稲田建築設計室	稲田 修
大和綾瀬支部	
建築設計工房	高橋 国彦
株式会社荒谷構造設計	荒谷由紀夫
海老名支部	
有限会社ベストプランニング	高橋 幹夫
愛川支部	
セイユウ企画株式会社一級建築士事務所	天野 正
県西支部	
おかむら屋建築工房	岡村健二郎
稲葉建築事務所	稲葉 勉
湘南リビングセンター株式会社一級建築士事務所	剣持 岩夫
一級建築士事務所株式会社山藤工務所	酒井 大輔
賛助会新入会員	
平成26年度入会者	
公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会	
ケイミュー株式会社 関東・首都圏営業部	

会 勢		平成26年 7 月 1 日現在			
支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	254	265	14	3	1
川 崎	108	106	0	2	-2
横 須 賀	51	52	1	0	1
湘南三浦	18	18	0	0	0
藤 沢	24	23	0	1	-1
鎌 倉	38	37	0	1	-1
茅ヶ崎葉川	18	18	0	0	0
平 塚	22	21	0	1	-1
秦 野	19	19	0	0	0
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	20	18	0	2	-2
厚 木	32	32	0	0	0
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	14	0	1	-1
愛 川	8	7	0	1	-1
相 模 原	79	78	1	2	-1
県 西	47	43	0	4	-4
合 計	773	774	9	8	1
賛助会員	80	78	5	7	-2

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

編集者のつぶやき

先月より、隔月ですが「瓦版」を発行いたしました。第1号の担当になり、全く初めてのことで途方に迷いましたが、皆様のおかげで何とか間に合いました。今後内容も一層充実していこうと思っていますので、お楽しみに。

写真は10年ほど前に北イタリアのドロミテというスキー場に行った時のものです。スキーはたまにしかせず、町ばかり見ていました。確かヴィツェンツァという街だと思いますが、建築の町といわれるだけに、建物と街の景色には圧倒されました。なかなか10日もの旅行なんてできませんので、大変な思い出になりまた建築に対する考えも影響を受けました。

【横浜支部 森 雄治】



かながわ 平成26年7月号（通号391号）

発行 平成26年7月1日（奇数月1日発行）
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

・ 担 当 副 会 長 芝 京子
・ 広 報 情 報 委 員 長 白 川 正孝
・ 広 報 情 報 副 委 員 長 宮 寺 透雄 小泉 厚
・ 広 報 情 報 委 員 森 雄治 恩田 耕爾 棚橋 由佳
・ 新 倉 良一 坪井 教一 杉本 勝郎
・ 事 務 局 小 林 恵美



旧松永邸の老櫓荘（国登録有形文化財）

今月の表紙

松永記念館と睡蓮

雨煙る新緑に誘われ、小田原は松永記念館を訪れました。
「日本の歴史公園100選」に選ばれた庭園には睡蓮の花が
慎ましやかに咲いています。聞こえてくるのは雨音のみ。
静かな時間が流れています。



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association